

令和7年度第3回岡山市基本政策審議会

令和7年11月10日（月）

1 開会

○司会 定刻が参りましたので、ただいまから令和7年度第3回岡山市基本政策審議会を開催いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます政策企画課の由利でございます。どうぞよろしく願いいたします。

開会に当たりまして、大森市長からご挨拶を申し上げます。

大森市長、お願いいたします。

2 市長あいさつ

○大森市長 皆さんこんにちは。大森でございます。

前回、8月の場であったと思いますけれども、選挙に通れば次の会に出させていただきますというお話をさせていただきました。無事当選をさせていただき、4選目ということになった次第であります。

実は選挙の際、政策局、そして秘書課の皆さん方とも、この基本政策審議会ですべて議論されたことをどういうふうにして訴えていくかというようなことを議論をさせていただきました。そういう中で、岡山っていうのは、その暮らしやすさっていう点においてはもう第1級の都市であるということはあるのではないかなど。やはりでもちょっと欠けてるとすると一体何なんだろうと。わくわくしたような、そういう感じっていうのがやはり大都市に比べると欠けてるところもあるのかな。歴史の問題、文化の問題、スポーツの問題、そして産業の問題、それぞれにおいて、全てそういうわくわくした気持ちっていうのは、今どんどん岡山っていうのはそういう面も増していると思います。忘れちゃったけど、まちづくりもそうでありまして、まちも大きく変わっている。こういったところをどういうふうに市民の皆さん方にご理解をいただき、これからの方向性を整理していくのかなっていうような話をさせていただいたところであります。

大分この会自身も議論が煮詰まってきたところでもありますけれども、今日もまた忌憚のないご意見をお伺いし、最終的な総合計画に結びつけていきたいと思っております。先生方、よろしくお願い申し上げます。

3 委員出席状況

○司会 ありがとうございます。

本日は、過半数を超える9名の委員にご出席をいただいておりますので、当審議会は成立しております。

また、本日は、阿部会長が急遽ご欠席のため、これからの議事運営は杉山副会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

4 議事

○杉山副会長 すいません。ただいまご紹介いただきました杉山でございます。今日は、阿部先生が急遽ご欠席ということで大役を引き受けさせていただいております。委員の皆様方、ぜひご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、会議の次第に沿いまして議事を進めてまいりたいというふうに思います。

会議の公開と傍聴の取扱いについて、事務局から説明をお願いいたします。

○司会 はい、事務局でございます。

本日は、傍聴の希望があった場合は、特に支障がなければ、会議の公開と併せて傍聴の許可をいただければと思います。

○杉山副会長 特に支障がなければ会議の公開と併せて傍聴の許可をいただければと思いますが、委員の皆様方、いかがでございましょうか。

傍聴を許可ということで、よろしゅうございますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○杉山副会長 それでは、異議がないということで、本日の会議の傍聴希望者につきましては傍聴許可をし、入室いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、よろしいですかね、はい。

それでは、協議のほうに入りたいと思います。

協議でございますが、(1)岡山市第七次総合計画（素案）について、事務局からご説明をお願いしたいと思います。

○北川政策局長 政策局長の北川でございます。

では、資料につきまして、岡山市第七次総合計画の素案について説明をいたします。

まず、資料3をご覧ください。

岡山市第七次総合計画長期構想の素案について説明をいたします。

今回から資料が横長になっております。前回ご議論いただいた構想原案について、委員の皆様からいただいたご意見も踏まえながら、必要な修正を加えて文書形式にしております。主なポイントや修正を加えた箇所について説明をいたします。

4ページをご覧ください。

時代潮流と課題認識の1. (1)少子・高齢化、人口減少の加速の中で、一部を追記しております。中・長期的には生産年齢人口の減少が見込まれておりますが、岡山市の人口は全国や他都市と比べ緩やかな減少と見られ、若年層等のダム機能を一層発揮するとともに、岡山市への新しい人の流れをつくる必要があることなどを追記をしております。

7ページをご覧ください。

第七次総合計画の将来都市像についてです。

ここは、前回をお示ししたものから変更しております。これまで昨年12月から計4回にわたり、委員の皆様から様々なご意見、ご示唆をいただきました。前回の審議会では、桃太郎は岡山を代表するブランドであり、定着しつつある中で、引き続きキーワードとして残したほうがよいのご意見、またつながりや、つながる力は重要な視点である、そのほか、東京とは違うライフスタイルをアピールすべき、若者の挑戦や夢の実現をかなえるといった視点、医療資源の優位性、地域内で経済を循環させる必要があるなど、ご意見をいただきました。

これらを踏まえまして、事務局として整理をしたものが資料の上の赤い囲みの部分になります。岡山市は、これまであらゆる分野で直面する課題を一つ一つ克服し、市民の最大幸福の実現と都市の持続的な発展に向けた変化を創出し、大きく成長してまいりました。しかし、これまで時代潮流で整理してきたように、今、時代の転換期にあり、少子・高齢化、人口減少の加速をはじめ、市政の課題が複雑化、多様化しております。そのような中、岡山市がさらなる成長を遂げ、10年先、20年先へつながる未来を切り開いていくためには、高い評価を得ている住みやすさに加え、わくわく感をさらに高めるまちづくりを進めていく必要があるのではないかと考えております。

そのため、各地域固有の歴史、文化や芸術、スポーツ等を生かした様々な交流、つなが

りの促進、チャレンジする全ての人や事業者への後押し等を進め、これらを通じて生み出される新たな魅力や価値により、岡山市を一層住みやすく、そして人の心が自然と弾むまちへと進化させ、愛着と誇りを持てるまちの実現を目指してまいります。

以上のことから、岡山市の第七次総合計画の将来像を、将来への行動の方向性を示す要素を盛り込み、「未来を拓く“わくわくする”桃太郎のまち岡山～つながり 輝き 幸せ実感～」といたしました。

続きまして、資料4をご覧ください。

前期中期計画の総論及び分野別計画の素案について説明をいたします。

資料4の2ページをご覧ください。

まずは、前期中期計画の総論部分について説明をいたします。

I、基本的な枠組みのうち、(1)計画の位置づけと(3)計画の期間及び、次ページの(4)計画の進行管理につきましては、5月に開催した審議会でお示しした基本的な考え方の内容のとおりでございます。(2)計画の構成につきましては、前回の審議会でお示ししたとおり、長期構想における4つのまちづくりの基本的な視点を基に、前期中期計画の分野別計画において政策の柱立てとして7つの政策分野に都市経営を加えた8つの都市の基本方向を定め、この基本方向に沿って政策を推進していくこととしております。

3ページをご覧ください。失礼しました。もう一度、すいません、少々お待ちください。もう一度資料4のほうから振り返って、もう一度いかせていただきます。

資料4の2ページをご覧くださいと目次がございます。4ページには計画の全体像をお示しをしております。計画の全体像をお示しをしております。計画の4ページにお示ししている全体像につきましては、前回の審議会でお示しをしたとおりでございます。

続いて、政策分野の考え方、計画の構成でございますが、資料4の7ページをご覧ください。

資料4の7ページでございます、まちづくりの基本的な視点、この中で都市づくりの基本方向を7つお示しをしております。その7つの基本方向に都市経営を加えた8つの都市づくりの基本方向を定め、その基本方向に沿って政策を推進をしていくこととしております。

資料、ページ戻りまして5ページをご覧ください。

5ページの5. 前期中期計画と持続可能な開発目標（SDGs）との関係性についてでございます。SDGsが目指す社会は、長期構想に掲げる将来都市像及びまちづくりの基

本的な視点と方向性を同じくするものであることから、前期中期計画がSDGsの目標に資する同じ方向を向いているという旨を記載をしております。

次に、6ページをご覧ください。

Ⅱ、人口の見通し、将来人口推計につきましては、令和6年度、今年3月の審議会でご説明をしたとおりでございます。

資料11ページをご覧ください。

目指す都市の形についてです。人口減少、少子・高齢化が進む中、誰もが健やかに幸せに暮らすためには、買物や医療、福祉などの毎日利用する生活サービスはそれぞれの地域で、休日のお出かけや高度な医療といった質の高いサービスは都心、都市拠点で利用できることが重要となります。それぞれの拠点においてスーパーや病院などの都市機能を確保することにより、地域の生活圏の生活サービスを維持していくとともに、公共交通で結ばれた各地域との連携、補完により、全体が支え合いながら成長するコンパクトでネットワーク化された都市を形成し、地域の粒が光り、支え合う岡山市を目指してまいります。

続きまして、分野別の計画について説明をいたします。

分厚い資料となっております2. 分野別計画と書いてあるものでございます。

こちらの資料の、めくっていただいて16ページからをご覧ください。

第七次総合計画の前期中期計画における政策・施策体系について、都市づくりの基本方向に沿って、30の政策、99の施策から成る体系をお示しをしております。

こちら、目次の後の18ページ以降をご覧ください。

先ほどの体系に沿って、現時点で取りまとめた分野別計画の素案でございます。

計画の構成について、例として最初の政策1をご覧くださいきたいと思います。

初めに現状と課題を整理し、次に施策の方向性として現状と課題に対応する施策を記載しております。続いて、政策分野における成果指標と主な事務事業を20ページ、21ページに記載をしております。それ以降につきましても、同様の構成で各政策分野について記載をしております。

今回、本審議会での答申の対象となるのは、資料3及び資料4の中期計画及び前期中期計画の総論となっております。

今後の予定につきましては、答申をいただいた後、11月後半にはパブリックコメントを行い、市議会での議論を経て必要な修正をおこなった上で2月に議案として提出し、3月中の成案を目指してまいります。

私からの説明は以上でございます。

○杉山副会長 ありがとうございます。

ただいま事務局のほうから岡山市第七次総合計画素案についてご説明がございました。これまでの当審議会の議論を踏まえて、計画の素案が示されました。本日は、素案につきまして、皆様よりご意見をいただきたいというふうに思います。

なお、当審議会が答申を行う範囲は長期構想及び前期中期計画の総論部分となっておりますが、皆様には専門的な見地から、分野別計画も含めてご意見を頂戴できればというふうに考えております。

なお、本日ご欠席の福島委員から、教育関係につきまして書面でご意見をいただいておりますことを申し添えておきます。

では、進め方につきまして、私の右側からスタートして、各委員の皆様にご意見を頂戴できればというふうに思いますが、できれば大体2分か3分ぐらいお一人、お考えいただいてコンパクトにまとめていただければ大変ありがたいというふうに思います。

それでは、岡山委員から素案等につきましてご意見を頂戴できればというふうに思います。

○岡山委員 この今の計画について。すいません。まず、これがまだどこまでのできてるものなのか分かりませんが、やっぱり行政の計画というのは総花的になって何でも盛り込まなきゃいけないから、何やかんや入っていて、非常に伝わりにくいなど。私どもいつも記事を書くのに大体困るんですが、どこがポイントが必死になって探すんですが、できればこれは何のためにつくるか、市民に伝えるためにつくるのか、文句を言われないうためにちゃんと書いていくためにつくるのかによって多少違いますが、ぱっと言いたいことを前面に出すような書き方にさせていただいたほうが良いなという気はいたします。

それで、この前、選挙、市長選があった前後から私もいろんな人と市民にいろんな意見を聞いてみましたが、なかなか市の意図が伝わっていないというのが現状だろうと思います。理解もなかなかされていなくて、何がしたいか分からないみたいなこと、それから各施策がばらばらになっていて総合的なものが見えないって言われるんです。そういう理解の人が多いみたいです。例えばアーリーナにしても、何のためかというのがなかなか伝わらない。やっぱりその全体の枠組みをばんと割と早めに打ち出したほうが良いのではないかと

と思いました。

今回、中期計画のほうにコンパクト・アンド・ネットワークの解説が入ったのはいいかと思いますが、マスカット型がどうかは別として、それは長期計画のほうとかに出せないんですか。割と全面的に出して、それがあって、そのために、簡単に言やあ核になるところの賑わいづくりとそれを結ぶネットワークみたいなもんが基本かと思いますが、そのことを全面に出して、そしたらこの部分、次の施策はこの部分のこれに相当するんですよというのが分かりやすいのではないかというふうに思いました。そういうふうと言われる。例えばアリーナだと、その賑わいづくりのほうのところ、わくわくするというのは、そちらのほうのところの部分に当たると。公共交通みたいなものはネットワークにいくと、当然当たるんだというところ、ここが重要なんだということが分かりやすいのではないかなという気がいたしました。

それから、この中にもあるんですが、この前から言ってるかもしれませんが、若者が挑戦するのを応援するというのもうちちょっと全面に出してもいいのかなというふうに思いました。何回か言ってますが、ももスタでやってることが結構よその県からも評価されていて、なかなか岡山市はすごいなって言われているのをよく聞きますし、今やっぱり必要なのは、担い手となる子供たちを育てるということは非常に重要かと思って、今ちょっと注目してるのが、例えば、市長の母校であります操山高校の取組なんかは非常に注目していて、生徒が思うようなことを自由にやらせたり支援するような体制を学校側が整えて、子供たちがいろんな活動をし始めて、起業した子供もばんばんいるし、いろんなコンテストに出て賞を取ってきてるような子がいるというような、そういうまちをつくるのが、そういうところが重要ではないかというふうにだんだん、すいません、最近特に思うようになりましたので、もうちょっと全面に出てもいいのかなという気がいたします。

それから、すいません、タイトルですが、桃太郎のまちってこちら側が言ったのかもしれませんが、すいません、この前ちょっと岡山市民で、市の幹部のOBだとか、著名な経済人だとか、ちょっと雑談する機会があって、こういうタイトルだけどう思うか聞いてみたんですけど、すいません、忌憚のないご意見を言って、非常に評判が悪かったです。みんな何それみたいなという感じではありました。やっぱり3つのぐらいなものを続けてしまうというのは、ちょっと言葉の伝え方、私もそういう言葉の伝える仕事をしてますが、あまりよろしくないとは思いますが。じゃあどうすればいいかというのは、例えばそれを2つに分けるとか、桃太郎が必要ならそれを分けるとか、何かもうちょっと工夫が必要

かなど。ただ、皆さんに聞いても、じゃあ代替案でそんなにいい案はないんですけど、わくわくを入れてみたりして幾つか何か案を聞いたりはしました。

ということと、あと個別計画になるのかもしれませんが、交通のほうで地域公共交通計画に書いてある目標値、JRで言うと最低30分以上、15分間隔みたいな目標値とかを入れてもいいのではないかという、入ってないのかなというふうに思いました。それから、公共交通の分担率を上げるというようなことをちゃんと書いてもいいのかなというふうに思いましたという感じですか。取りあえず、はい。

○杉山副会長 ありがとうございます。

じゃあ、引き続いて齋藤委員お願いします。

○齋藤委員 はい。言葉の専門家の岡山委員に対して私は、山陽新聞の一読者のレベルなんですけど、マスカットっていいなと思っています。あと11ページにある一部輝いているようなブドウの房もいいなと思います。このドラフトが、実際につくられる過程がどうだったのか私は存じ上げないんですけど、規模の小さい自治体だと、最近よく言われるようにコンサルさんに任せがちです。そうすると、耳触りはいいんですけど、何かお仕着せのような、よく似たようなものが量産されがちです。一方で私は、岡山市はシンクタンク機能もしっかり持ってらっしゃるんじゃないかと信じています。ですから、出来上がったドラフトも前回の私たちの意見を取り入れて岡山市が自ら作成して下さったんじゃないかと思っています。特に「桃太郎」につきましては、杉山先生がせっかくだから続けたほうがいいって言われた一方で、私は個人的には岡山市も桃太郎だけど、総社の辺が文句を言わないかなとか、若干そういうのも思っていました。しかし、あの辺の桃太郎の関係の史跡は岡山市ものであることは間違いありません。それから「わくわく」という非常に分かりやすい言葉が入ったのことも評価しています。キャッチフレーズで「わくわく」というのは非常にいいと思います。これは、別に事前に打ち合わせて褒めているのじゃないんですけど、一市民としてなかなかいいなと思って総論を伺ってました。

私、医療・保健・福祉のところの担当なのですが、来週その審議会があります。市の担当者の方に、この間わざわざ来ていただいて細かなことを説明していただきました。市のこの方面の政策についても、このドラフトにも、既に市が持つてる機能としてかなりいいものがあるってということも書き込んでいただきました。また、それがベースになって、も

う少し広げた、ヤングケアラーの問題とか、非常に重い障害を持っていても、岡山市で暮らしてゆける場所の底支えとして、医療、福祉、介護という分野が違うところまでカバーしているっていう感じが出てて、ありがたいなと思って読ませていただきました。

はい、以上です。

○杉山副会長 ありがとうございます。

じゃあ、嶋田委員さん、よろしく願いいたします。

○嶋田委員 はい。私も言葉のほうではちょっとよく分からないんですけども、委員さんが言われたタイトルですね。未来を拓くから始まるのが、未来を拓く何とかがいろいろな政策とかいろいろあるんでしょうけれども、もしかしたら一般の市民には、その未来を拓くという言葉がずっと入ってこないかもしれないと個人的には思いました。でも、わくわくと、個人的には桃太郎は大事にしたらいんじゃないかなと思っております。

それから、本当にここ20、30年ですか、私は建築ですけども、岡山の市街地が随分と様変わりしてきて、岡山市さんのほうでもいろいろと整備に力を入れていただいて、何かすごく変わってきたっていう感じが皆さんもしてるんじゃないかと思うんですけども、まちなかはもっともっと活性化じゃないけど、いいまちにしていきたいために、これからもやっていただきたいと思うので、そういうことを盛り込んでいただいています。

それから、マスカット。私も、これはやっぱり今後の少子・高齢化で過疎化していったり、まちとか村の在り方がいろいろ問題になってくるでしょうから、このマスカット構想を大事にして、これをベースにいろんな施策が進んでいくっていうのをもうちょっと、また今後の話でしょうが、分野別になっても、それがつながっていくような計画にしていきたいと思います。

以上です。

○杉山副会長 ありがとうございます。

じゃあ、引き続きまして田中委員、お願いいたします。

○田中委員 はい、失礼いたします。

桃太郎というのが、私たちの中での有名人だから使ったのか、それとも何か意味を込め

て使ったのか。この桃太郎というコンセプトは何だったのかなというふうに最初に思いました。つまり桃太郎ということに何を象徴させたいのかなってことです。例えば動物と食べ物を分け合っているから自然と共生とか、桃から生まれたから自然がルーツとか、老夫婦から生まれたから養子縁組も推奨とか、まさか外敵をやっつけるからというようなことではないと思うんですけども、周辺の地区をやっつけてという意味はまさかないと思ってるんですけども、何を象徴させてこの日本一というところにつなげていくのかなと。桃太郎コンセプトをはっきり打ち出したほうが、この言葉を使う意味合いが伝わりやすいのではないかなというふうに思いました。

それから、1番の子供、若者が健やかに点々というやつなんですけれども、ここに共働き、子育ての推進とあるんですが、しかしこれは働き方改革なしにできることではないような気がいたします。つまり共働き、子育てができるためには、働き方がある程度見直しを進めまして、特に男性へのアプローチがちょっと弱く見えるので、この妊婦体験と沐浴体験だけで男性の育児が終わるのかって、私はそんなことはないと思ってます。しっかりと家族全員で育児できる体制があったほうが若い女性は引き止められると思います。少なくとも男性育休100%の都市と違ってやれば、若い女性は働きに来るんじゃないかというふうに思う次第です。

それから、DXの話が出てまいります。教育現場でDXを進めるのは大変大事なことだと思うんですけども、その担い手をどう考えているのかっていうことがあります。岡山県内には理系の大学もたくさんありますので、そことどんなふうに協力関係を築くのかといったことも展望の中に入ったほうがよいのではないかと思います。例えば、高等学校へ教えに行くサポーターとして大学生を活用するとか、大学院生のアルバイトを入れるとか、考えられないことはないと思ってます。要するにDXはすごくいいとは思いますが、必要だと思うんですけども、これを広める方策というものもパツクになるべきかなと思っております。

それから、年寄りが取り残されるんじゃないかとちょっと質問がありますね。やっぱり岡山と隣接したさる市では、さるアプリを入れてもらおうとしていたんですけども、それがなかなか進んでない。お年寄りの皆さんがちょっと及び腰になってるって話も聞いたことがあります。ですので、年寄りが使えないDXだとちょっと効果が中途半端になりますので、そこをどうフォローしていくのかっていう策は要るんじゃないかなと思っております。

それから、地域の話ですね。多文化共生は、ものすごく大事だと思います。人口減少、働き手が足りなくなるってことは何度も書かれておりますので、じゃあそこをどうするのか。周りの都市から人口流入を目指すのだということは分かりますけれども、外国人材をどのように使っていくのかということも展望の中にしっかりと位置づけていく必要があるんじゃないかと思っております。そういった意味で、共生の具体的な施策がたくさん出てくることを望んでおります。

地域の力を確かにするというのは、これは本当に私も賛成なんですけれども、じゃあ既存の自然発生的なコミュニティで十分かっていうところがあると思います。私の友人は周辺の市に住んでるんですけども、非常に行き来の緊密な市で、おかずを分け合ったりとかしてるんですけど、それでも町内で50代男性がひきこもりがちだったのの孤独死は避けられなかったと言っておりました。ですので、自然発生的なコミュニティで、できることとできないことがあるとしたら、どこがどのようにしてそれをカバーしていくのかということが大事ではないかと思えます。町内会の活用もありますけれども、あと地域の公民館、これがすごく可能性のある仕組みですので、若者の居場所にしていくっていうこともできますし、市の職員の一部を振り向けてやっていけたらいいのではないかなと思っております。

それから、スポーツの話が出てきて、これはとてもいい着眼だと思います。何しろ晴れの国ですから、屋外でスポーツやるにも結構ですし。ただ、スポーツといったときにちょっと縦割り感があって、いろんな部署がみんなでスポーツのことを守り立てるっていう発想にはならないのかなと。つまり横につなげて、横にも広げながら展開させていくスポーツカルチャーっていうふうに考えていきますと、例えばスポーツに関するフェスティバルを開いたり、スポーツに関係する映画のライブラリーを開いたり、あるいはスポーツ関係の文学の図書館をつくったりとか、いろんなところ、部署がスポーツということ 키워ドにしながら展開ができるというそういう余地があると思いますので、せっかくこういういいコンセプトを持っているのであれば、一つの部署だけでっていうことはちょっともったいないのではないかなというふうに思っております。

あと、この自然が調和するっていうとこ、私はこれは非常に好きです。岡山市はとてもいい資源を持っておられて、例えば操山里山センターもとてもいい活動だと思いますし、私もお世話になっております。こういったところ、身近な自然を活用できる岡山市というところは自慢してもいいのではないかなと思っております。

全体に満遍なくいろんなものをカバーしてくださった印象がすごくありますし、また進行管理がスケジュール化されているっていうところも、しっかりとしたお役所だなという気がします。大学も文科省から言われたことをこのようにプランを立てて遂行してP D C Aとかやらされておりますので、ここは同じような共感をするところではあります。ただ、満遍なくやるだけだと散在してしまうというのは全くそのとおりだと思います。ということは、幾つかこれだけはナンバーワンというものをつくっていったらいいんじゃないかなと。つまりこのエリアに関してこういうナンバーワンを我々が持っているって言えるものができることが具体的であり、説得力であり、人を引きつけるアピールのポイントになると思いますので、例えば先ほどの男性育休であれば、男性育休だけは全国の都市で1番であるとか、何かそういうここだけは1番っていうものをもっといっぱいつくることのできたら散在感っていうものがなくなっていくのかなというふうに思いました。

以上です。

○杉山副会長 ありがとうございます。

そうしましたら西田委員のほうにお願いできますでしょうか。

○西田委員 失礼いたします。

各先生方が言われたとおり、未来を拓く“わくわくする”桃太郎のまち岡山、これほどでもないネーミングのように思いますので、これで進めていっていただけたらと思います。

そして、私たちは、地域の活性化のために、若いお母さん方、そして子供たち、そして高齢者の方々といろんな活動を通じてつながりを持つような活動をいたしておりますので、岡山もいろんな学区でいろんなことをされていると思いますので、この岡山市の第七次総合計画はこのまま進めて行っていただいていいんじゃないかと思います。

以上です。

○杉山副会長 ありがとうございます。

そうしましたら、次は辻本委員、お願いいたします。

○辻本委員 失礼いたします。

私から3点申し上げたいと思います。

まず、1つ目の将来都市像に関してですが、いろんな人、チャレンジする全ての人や事業者を呼び込んで活性化をさせていこうというコンセプト自体、非常にそのとおりだなと思う一方で、ちょっと私の感想になるんですが、私は大学で土木工学、特に河川工学、気候変動のリモートセンシング、地球環境のリモートセンシングのようなことを専門に学生さんを教えているんですけども、大学で学生さんが今度社会に出る、就職するということにどういうところで就職活動、就職したいかという話をしていく中で、やはりどれだけ岡山市に魅力があったとしても、岡山市でこのような分野、何かしら理系の専門的な分野で仕事をしようと思うと、どうしても就職先が限られてしまって選択肢が少ない。選択肢を少なくしてでも岡山市に住むことを奨励するのか、それとも岡山市いいなって思っても、あえて自分の専門性をより広い選択肢の中で考えられるように、ほかの地域での就職活動を応援するのか。そのあたりは一大学の教員としては非常に難しいなと考えています。分野にもよるんですけども、様々な分野の若い人たちが働く場所が、まちとして魅力があるということに加えて、岡山市あるいは岡山市からの通勤圏で働くことができるよという観点で、いろんな事業者への呼び込みなども含めまして、お考えいただけるとありがたいなと思っている次第です。

2点目は、住みやすさということで従来より高評価があるということで、私も、もともと岡山の出身ではないんですが、岡山に来て本当に住みやすいところだなというのは非常に実感いたしました。ただ、一方で水害へのリスクというのは非常に、私が自分が専門だからというのもあるかとは思いますが、住んでいながら非常に怖いなと日々思っています。内水氾濫のリスクなどは、特にこの低平地でどうしても岡山は勾配が緩くて海に水がはけにくい立地条件にありますので、気候変動が進む中で大丈夫かなっていうところは非常に怖いと思うことが多くございます。このあたり、従来からもいろいろ対処してくださっているところではありますが、今後の気候変動の状況などを見ながら重点的にお考えいただけると安心が増すのではないかなと思います。

あと、最後、3つ目のポイントですが、田中先生からもご指摘のあった子育てに関して、総論とあと分野別のほうにもなるかもしれませんが、子供を持つことをなかなか、持とうとすることに積極的になれない方々にどうアプローチするかという観点では書かれているんですが、同時に子供が欲しいのになかなか授からないという方々も多くおられて、全国的にも不妊治療などに拡充されてきている中で、妊娠期からという言葉があります

が、岡山市のほうでも不妊治療への助成などもされておられると思いますので、妊娠前からサポートしますよということですか、田中先生がおっしゃってたように、もともとそのワーク・ライフ・バランスについてもちょっと考えますよとか、必ずしも妊娠期からだけではなくて生活トータルとして、女性、男性側へのサポートとしてお考えいただけるといいかなというふうに思いました。

私からは以上です。

○杉山副会長 ありがとうございます。

じゃあ、田淵委員、お願いいたします。

○田淵委員 はい。全体的に間違いは全くないですし、あれなんです、長期計画のところちょっと気になりようたんが、人口減少の関係での踏み込みが何かふわっとした感じに感じられるような、3番のデジタル以降についてはそれでも少しは具体性が表現されてるんですが、最初の(1)(2)の辺はあまりに踏み込んでなくてふわっとした感じを受けたなと。もう少し、市長が再選されて4選目です、もう少し踏み込んで仕上げの表現を入れられてもええんじゃないかなというような気がしました。

あと一つ、言葉上の遊びだと思うんですが、長期の2ページ目のところの高次都市機能の集積、中四国の交通のクロスポイント。これ最初見させていただいたときに、中四国の交通のクロスポイントいうてスポンと腹に入ってきたんです、表現的に。ただ、文中を見ると、近畿と九州を結ぶ東西軸と、山陰と四国をつなぐ南北軸のクロスポイントとか、間違いでは全くないんですけど、表題とのつながりがどうも、個人的な意見ですが、違和感をちょっと感じたもんで。もしここを今後強調するのであれば、どちらを強調していくのか。何か統一して中四国の交通のクロスポイントでもいいですし、東西南北軸のクロスポイントでもいいですし、使い方だけの問題でこんなことを言うて失礼なんですけど、何となくどちらかに統一して今後使い方をしていけばもっとアピールできるのかなと。岡山はいいとこいっぱい、私も長年住んでますが、ありますけど、私もPR下手なんですけど、正直内情と比べて岡山市のPRがおとなしいなという感じがしてます。もう少しこういう表現でPRを強調していこうとか、何かそういう統一的な表現も考えて、計画の中にそういう意図も含めた表現を使っていけば、もう少し強調できるんじゃないかなと。すいません。勝手にそういう思いを持ちましたんで言わせていただきました。よろしく申し上げます。

○杉山副会長 ありがとうございます。

じゃあ、最後、谷一委員お願いします。

○谷一委員 はい。岡山市の第七次総合計画の素案を拝見しました。よくよく、基本的によくできていると思います。大変よくできていると思いますが、ちょっと懸念というか。この間、杉山委員は桃太郎を絶賛されましたけど、先ほど田中委員がちょっとおっしゃったように、桃太郎って本当いろんな概念があって、非常に岡山の人は単純に桃太郎をあまり批判的でなく受け入れておられるんですが、例えば桃太郎さん、桃太郎さんの歌でも、3番、4番のほうにいきますと、あまり一般には広まってないですが、残らず鬼を攻め破り、壊してしまえ鬼ヶ島とか、最後のところは分捕りものをえんやらやと。要は、ちょっと長くなるけど、歴史的に言うと日清戦争で勝って賠償金を取りますよね。それで八幡製鉄をつくってということで、戦前の日本って桃太郎の発想っていうか、とにかく戦争すればいいんだ、勝てばいいんだ。少々戦時国債を出そうが大借金をしようが、勝てば賠償金が取れる。だから、チャラになるんだからっていう、何か経済戦争とは言わないですけども、そういう概念がやっぱりずっと付きまわっていて、それが桃太郎の中に、桃太郎が変質するんですけど。桃太郎ってもともと原型は中国の話だろうと思うんですが、老夫婦が桃を食べて回春して子供ができるって話ですよ、基本的な話は。それが日本へ来ると川から桃が流れてきて、割ると中から、桃の中から生まれるというふうに変質してるわけですけども、岡山の人が単純に桃太郎、桃太郎って称賛してるけれども、本当に海外もいろいろ含めて、桃太郎を強調するのがいいのだろうか。田中先生が懸念を示されたのと同じで、私も桃太郎に対しては多少そういう部分を持ちながら、何も言わないで過ごしているところがあります。

あと、もう一つ。資料4、前期中期計画の素案の7ページのところで、細かな話、基本方向の5番、歴史・文化・スポーツで、これ新たな価値と魅力を創造する心豊かなまちづくりで、これには読点がないんです。ところが、基本方向の7番、都市・環境のところは、都市と自然が調和するで、ここへ読点が入ってる。それで、未来につなぐまちづくり。何でこっちはここへ入るんだろうと。好意的に解釈すると、これ創造するで、心豊かなで創造するって動詞が1つしかないんで、ここはそのまますらっと行けるけど、この調和する、未来につなぐと動詞が2つになるのでここへ点を入れてるんだろうと思うんですが、ちょっと見ると、何か片っぽには点があつて片っぽにはないので、細かなことです

が、調和し未来につなぐ。何がいいかわかりません。このままでいいのかもしれませんが、何か細かなことをちょっと。あとは皆さんおっしゃったとおりで、はい、ございます。

○杉山副会長 ありがとうございます。

たくさんのご意見をいただいて、これを反映させて最終的に答申にということなんですけど、阿部先生のご意見を聞いてないんですが、一応副会長として少し感じたことだけ述べさせていただきたいというふうに思います。

委員の先生方からも、皆さんお話がございましたけど、非常に今までの審議を踏まえてうまくまとめていただいたなというのは強く思っておりますので、事務局の方は本当にご苦労されたんだろうというふうに思います。

私の専門分野ではないんですけど、少しお話をさせていただくと、この前期中期計画の素案の11ページのこのマスカットの図というのはとてもよく考えられた絵で、これ本当に地域それぞれが自主的に何か活動していただいて、それぞれが輝くようなそういう地域になっていくといいなというふうに思うんですけども。僕が今、岡山芸術交流とそれから瀬戸芸を比較してブランド論なんかでどういうふうに考えていったらいいのかということをして学生たちと議論話してるんですけど、やっぱり私僕たち謙虚に学ばないといけないと思います。のは、福武さんというのは先見の明があり非常にえらくて、地域を巻き込んでるんですね。通常はその芸術祭っていうのは、芸術だけに関係した人が何かをやって、それをそのままスルーして行って、一般の人は一切関係ないというのが実は多くの美術館、美術の展示会とかそういうことでは行われてしまうんですけども、福武さんは非常に強い思いがあって、美術を使って地域おこしをやるんだと主張されています。地域の人が絡まないともうやらないというぐらい非常に強い思いを持ってやられたので、見事にどうしようもない島が復活してるんですよ。申し上げたいのは、僕は岡山市は税金で賛助をされてるので、岡山芸術交流も一つ一つこのマスカットの、特に建部とか外れたところに多分空き家なんて腐るほどあるので、そういうところの人たち、と言いながら、そんなことを言っ
て市が言うとまたへそを曲げる人がいるので、地域から手を挙げさせて、協力するところには一緒に何かやるよということで進めていただきたい。←ぜひその芸術交流というのをうまく使って地域おこしをやって欲しいのですと。そうすると何かが残るんだろうと思うんですよ。やはり地域、そして人を巻き込まない限り、上っ面だけで終わっ

て、何人来ました、経済効果はこれだけですといっても、ほとんど地域の人にはメリットがないだろうと思うので、ぜひそういう方向でお金の使い方っていうのを考えていただくと非常にいいと思います。~~うし、~~仮に10年かかろうと20年かかろうと、この地域、端っこのほうですよ、特に、光があまり当たらないところの地域にそういうことが広がっていけば、少なくとも瀬戸芸を見てると本当にこんな島まで広がるのかなというぐらい広がってますので、加速度的にその影響というのは広まっていくんだろうというふうに思います。~~ので、~~そういう点をぜひ考えていただければ非常にありがたいなというふうに思います。

それから、ももスタについては結構褒めていただいたんですけど、実は僕、ももスタは最初からずっと関わっていて、今は実はほとんど関わってないんですけど、~~あれ~~成功してる理由っていうのは、2人のある意味では少々とがった若者が~~もう~~一生懸命やってるんですよ。私たちにできることというのは、こういう突き出た人たちを一生懸命サポートしてあげることだと思います。足を引っ張らないで、岡山って割かし足を引っ張る人が多いので、とにかくとがって、いろいろ言われて、いろいろ問題があることも事実なんですけども、ぜひこの2人の人をサポートしていただいて、岡山からユニクロのような~~そういう~~企業が生まれてくるように持っていけたらいいなというふうに思っております。

それから、これは谷一先生のところに関係するので私が僕は言うべきではないのかも分らないんですけど、私僕は実は海外からのお客さん、結構大物を岡山に呼んでご案内することがあって、その人たちの意見を聞くと、オリエント美術館ってすごいと、何でこんなものが岡山にあるんだということを結構言われます。私僕たちはどうもその価値をほとんど分かっていなくて宝の持ち腐れになっているのではないかという思いが強くなるので~~す。~~→オリエントの学会を年に1回ぐらい、岡山市と何か一緒にやるとか考えていくと、あれだけの宝が何か宝の持ち腐れじゃなくてちゃんと生きてくるのではないかというふうに思います。~~ので、~~たった一つの例にすぎませんけれども、多分そういう資源が岡山には山のようにあるんだろうと思います。オリエント美術館についても、池袋と比較するぐらい僕は立派だと思ってますので、ぜひ考えていただいたらというふうに思います。

ほかに、先生方、何かこの素案とそれから前期中期計画と長期構想につきまして何か言い忘れたこととか何かありますでしょうか。

はい、どうぞ。

○谷一委員 マスカット、これはよくできてると思う。本来コンパクトシティーなんですよ。コンパクトシティーの構想で、コンパクトシティーっていうとあちこちでいるんなところで宣伝してるから、岡山の特産のマスカット・オブ・アレキサンドリアを上手に使って、上手に表現されてるのは先生おっしゃったとおりですけど、最近は、これも変な話ですが、マスカット・オブ・アレキサンドリアは岡山の特産なんですけど、もう木が古くなって、昔からマスカット・オブ・アレキサンドリアを作っていた農家さんが、高齢化もあって、新しい木をもう植えないでシャインマスカットにしたりとかしている傾向が随分あるようなんですよ。マスカット・オブ・アレキサンドリアで使わないと、シャイマスカットっていうと日本全国あちこちにもうあるのでなかなか独自性が出せないのかもしれませんが、もう何か過去のものにすぎているような雰囲気はありませんかと、ちょっと変な懸念をしたりしました。よくできてるんですけどもという。

○杉山副会長 分かりました。なかなかシャインもおいしいですよね……。

○谷一委員 いや、シャインもおいしいですけど、やっぱり僕はアレキサンドリアが。種はあるんですけどね。皮そのまま食べる、種も食べる人もおりますけど。大好きなんです。

○杉山副会長 ちゃんと登録をしないと、原種を守らないとか、農業政策は今まで日本は緩かったんだろうと思いますので。~~もっさり~~それから林ぐどう研究所では、全く世の中にないすごいものを作ってらっしゃるので、私たちが一生懸命応援して、岡山にしかないすごいもの、ダイヤモンドより高いというものをぜひこれからも作っていただいたらというふうに思います。

ほかに何か。

はい、岡山委員。

○岡山委員 今のマスカットの形のところの話なんですけど、コンパクト・アンド・ネットワークというものの理解がやっぱり進んでないということをおほども言いましたけど、それって別に私どもの責任でもあるかもしれません。大森市長が言い出して、特別なことを言ってるわけではなくて、もともとコンパクト・アンド・ネットワークにするしかない

というか、都市政策をそうするしかない話で、我々もずっとその前から書いてきたんだけど、でも浸透していないと。コンパクト・アンド・ネットワークにしないとどうなるんだというところですね。郊外を切捨てだと言われるけど、コンパクト・アンド・ネットワークにしないと郊外の人もたないでしょということをちゃんと伝えるように、もう計画に書いていいのではないかなというふうに思います。もちろん世界中の都市がコンパクト・アンド・ネットワークをやっている、日本の国土交通省を含めて、それをやらないと補助金もつかないんだという事実があるわけです。やるのが当然で、もともとすべきだった話だろうと思いますので、そこをどこまでどう書くかというのはちょっと政治的な問題もあるかもしれませんが、きちっとやっぱり打ち出したほうが、説明をしたほうがいいのではないかと。

そのネットワークの部分の根幹になるのはJRと幹線バスだと思います。JRの減便が大分進んできましたけど、何かJR、最近態度が変わってきたような気がします。岡山支社の、JR西日本全体だと言ってますけど、何か地域の交通に一所懸命になり出した感が多少あって、支社長もそう言ってるんです。特に瀬戸内市が、前からそうですけど、新しい市長になって特に、赤穂線問題を一所懸命やって増便につなげるんだというふうなことを言われて、JRとも話をしているということなので、その部分、ここは今まで取りあえず支線バスのフィーダー交通をやってきたかと思いますが、これからはやっぱり幹線交通のところをもうちょっと充実させるというところを打ち出していただけたらなと。それで、駅も、やっぱりその駅の数はまだ足りないと思いますので、新駅ということも一応検討材料に含めていただけたらなというふうに思います。

○大森市長 杉山さん、じゃあここだけ。

○杉山副会長 はい。

○大森市長 この点だけちょっと私も。

○杉山副会長 はい、どうぞ。

○大森市長 今、何人かの方からこのマスカット型都市構造、マスカットがいいかどうか、それはちょっと横へ置いておいて。これ、おかしいと思いません。まず第一に都心の

大きさと周辺部の粒の大きさ、これを同じにしてるんです。本当なら都心の粒が大きい。じゃあ、なぜこれを同じにしたのか。これは考えた上で同じにしてる。山陽新聞のほうで岡山市が進めている都市機能を中心部に集めるコンパクトシティー構想はと書いて、相当誤解を生んだんですけれども、これ、まず誤解があるっていうところは、都市機能って何なのっていうところの整理が希薄であるとそういう話にまずなっちゃう。ここで言ってる都市機能というのは、齋藤先生の顔を見てるわけじゃないんですけど、やっぱり一つは病院。これは非常に大きなものであります。それから、スーパーとか。これは毎日の買物。こういったものが都市機能の代表的な例であるわけでありまして。そういったものを各都市が、各拠点が持っていきつついうのであれば、もちろん高次の機能というのは中心部しか持てない。岡山大学とか、日赤とか、市民病院、そういったところから考えると本当は都心のほうが大きくなるのかもしれませんが、またそれも誤解を生みかねないということで同じ大きさにして、それぞれの地域に都市機能が必要なんだということを、都市機能の中身も書かせていただいているっていうのがここなんです。確かにこうしないとどんなことになってくるかっていうところを書いてないから、それは若干刺激的なんで、こういうところに書くのがいいのかどうかっていうのはちょっと議論があると思いますけれども。もうこれから人口減少、岡山の場合はまだ人口がある程度とどまっちゃうんですけれども、ただ10年間で建部は25%減ってるんですよ。そんなことを考えていくと、この岡山市が全体がそんな人口が減らないから同じでいいのかといたらそうじゃない。それぞれにやっぱり都市機能を持たせるようにしていく。そして、それをネットワークで結んでいくっていうことが必要で、それが岡山さんが言われたように分担率みたいなものをもっと具体的に表現していくというのはあってもいいのかもしれないなど、話を聞いててちょっと思いました。

以上です。

○杉山副会長 ありがとうございます。

ほかの委員の方から言い残したこととかございますでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○杉山副会長 では、今まで出ました意見をお含みおきいただきまとめていただいたらというふうに思います。

では、よろしいでしょうか。

何か、岡山さん、あります。

○岡山委員 いえ。これ、今日がこれで。

○杉山副会長 よろしいですか。

○岡山委員 すいません。ついでに。さっきの話の続きで、すいません。今日午前中は美咲町の行財政改革の審議会に行ってたんですけど、本当にもうさっきの建部ではないですけど、もう岡山市の大分先をいってるといえばいっていて、水道から、下水道から、もう待ったなしぐらいになってきているし、この先を考えたら岡山市でも周辺部ではそう違わないと思います。水道が維持できるのかどうか、下水道も維持できるのかどうか。この前、日経新聞に載ってましたが、下水道をやめて合併浄化槽にしているところがもう既に出てきているというような状況の中で、道路を広げて、水道を広げて、下水道を広げることが、それでもつのかって、明らかにもたないだろうと思いますので、その辺の説明をすると確かに刺激的で嫌みに聞こえるかもしれませんが、そういう現状といえますか、ある程度人口集積がないと公共交通が成り立たないので、そこもそういったこともあるし、車中心の社会でこのままやっていけるのかどうかとか、その辺のことも本当どこまでかは別として、別途参考資料的なもんか何かにかんとかも含めて、ちょっとやっていけたらというふうに思います。

あとそれから、先ほど言いましたこの形を示したことで、ハレノワはここに当てはまります、アリーナはこれです、路面電車の駅乗り入れはこれに相当しますというのが比較的分かるのではないかとというふうに、さっき言ったのはそういう、これを前面に出すことによって、この施策はここに当てはまってるんですよということを示したほうがいいんだろうなど、この前、大分市民の方に意見を聞いていて思いました。

あと、それから、残念ですが、箱物行政だというふうな誤解もいっぱいあります。箱物を何で造ってるかということをこの計画で説明するのは難しいかもしれませんが、一般行政の中で有利な起債とか、合併推進債とか、そういうものの期限が来てるんだとか、そう

いう話も、この計画、取りあえず計画と直接関係はどうかと思いますが、それはもうちょっと分かるような説明をしたほうが良いなというふうに感じます。私が直接話してこうこうなんですよと言うと、皆さん、なるほどそうなんですか、分かりましたみたいなことは言われるので、そこはやっぱり行政の仕組みって非常に分かりにくくって、交付税措置だとかその辺のことにはなかなか普通の人には分からないので、それを何とか、すいません、新聞社の仕事かもしれませんが、ということをちゃんと、自分でやれと言われれば、すいません、はい。

○杉山副会長 いずれにしても、結論とすると、考えていただいたこのマスカットのネットワーク化された都市構造という図はそれだけインパクトがあって、これが一人歩きする可能性もありますので、いろんな意見が出ましたけれども、うまく処理をしていただいて、できるだけ誤解を生まないように努力をしていただいたらというふうに思います。

それでは、よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○杉山副会長 では、1番の(1)のほうのご意見をいただくということ、協議につきましては以上で終わらせていただいて、(2)の答申についてということについてお諮りをしたというふうに思います。

本日は、答申案について活発なご議論をいただき、様々なご意見を頂戴しました。本日の議論を踏まえて、答申として取りまとめたいと考えております。時間的な制約もございますので、あとは阿部会長と副会長である私に一任していただき、事務局と詰めさせていただくということでご了解をお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○杉山副会長 ありがとうございます。それでは、会長、副会長一任とさせていただいて、委員の皆様には事務局から報告をお願いしたいというふうに思います。

なお、答申につきましては、審議会を代表しまして阿部会長と私で近日中に市長にお渡

ししたいというふうに考えております。委員の皆様には、何とぞご了承をよろしく願います。

それでは、次に移りたいと思います。

その他につきまして、何か事務局のほうからございますでしょうか。

○司会 特にございませぬ。

○杉山副会長 分かりました。ありがとうございます。

昨年12月から5回にわたりまして審議会を開催してまいりました。皆様方には、お忙しい中、ご出席いただき、また大変熱心にご議論をいただき、誠にありがとうございます。おかげをもちまして岡山市第七次総合計画策定に向けて一通りの議論を終えることができました。先ほど申しましたように、日を改めまして、近日中に市長に答申を行いたいというふうに思います。これまでの皆様方のご尽力に対しまして、会長に成り代わりまして心より御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

それでは、最後に大森市長から、先ほどいただいたんですけど、もう一度まとめのお言葉を頂戴できればというふうに思います。

○大森市長 はい。コンパクトシティに関しては先ほどの議論のような感じだと思うんですけども、少し桃太郎について、意見といたしますか、考えが若干食い違っているところがあるような気がいたします。実はこれは最初、前回の長期計画のときに杉山先生のほうから、誰もが聞いて岡山って分かるワードは何なんだろうというところで、桃太郎という言葉を使ったら、これは岡山の計画だということが分かるんじゃないかっていうことで使出したということで、齋藤先生が心配される総社のほうが怒ってるわけではありませんし、そこはある面定着はしてるのかなと。ただ、谷一さんのおっしゃるように、これは明治時代に出てきた、本当に出てきたというか確立したのはその時代の話でもありますし、我々今、古代史をやっている立場から見ても、吉備津彦命が桃太郎だと言っていると。この鬼っていうのは我々のことを言ってるんだよねって。でも、鬼は仲よく鉄を加工したり、生産を、農業生産をどんどん高めていったりしてるんで、桃太郎を礼賛してるわけでもない。だけど、桃太郎というのが一番通りがいいってのも杉山先生のおっしゃるとおりかなというように思いで今日まで来たところではあるんですが、何が山陽新聞幹部の皆さん方は…

…。

○岡山委員 山陽新聞の幹部じゃない。

○大森市長 幹部じゃない。

○岡山委員 一般の市民として。

○大森市長 何がいかんと言うんですか。

○岡山委員 岡山市の幹部のOBというかOGというか、の方とか、著名な経済人の方と話したんです。みんな市民の方、あと、普通の主婦的な方とも含めて話しているときに、いいと言った人は一人もいなくて、何だそれみたいな話しかなかった。一つには、やっぱり3つ言葉を重ねてるところのまどろっこしさかなと思ってます。何か改善案だと、著名な経済人の方が送ってきたのは、同じような言葉を使いながら分けてやるとか、2つの言葉に分けるとか、そういう言葉遣いの問題です、まず。

○大森市長 2つ分ける。

○谷一委員 具体的に言ってあげたほうがいい。

○岡山委員 これがいい案かどうか分かりませんが、案の一つとして、暮らしと子育てにわくわくを日本一へ桃太郎のまちづくり岡山とか、何かいろんな案を書いてこられました。そこで、だから3つの言葉を、違うものを重ねてるところがまどろっこしさの原因かなというふうには、とは思いません……。

○大森市長 つながり、輝き、幸せ実感という3つが併記されてるのがまずい。

○岡山委員 いやいや、あっちの。

○大森市長 未来を拓くっていうのがまずい。

○岡山委員 未来を拓くとわくわくと桃太郎が重なってるところがまどろっこしさの原因かなど。そうそう。そこ、それです。それが評判が悪かったと言ってるんです。

○大森市長 これは、杉山先生のおっしゃる足を引っ張る市民性。

○岡山委員 すいません。ただ、あまり賛成した方がいらっしゃらなかった。言葉遣いの問題。私のほうの立場からしても、あまりうまい言い方、3つ重なること、重ねることがうまい言い方ではないなという感じはします。

○大森市長 未来を拓くは要らないかもしれないけどね。

○岡山委員 違うものを3つ重ねてるので、何かまどろっこしさがあるんだろうと思います。

○大森市長 はい。これは会長、副会長一任ということでよろしいでしょうか。

○●●委員 はい、結構です。

○大森市長 じゃあ、十分議論させていただいて。ということは、桃太郎を使うこと自体がアウトってということではないんですね。

○岡山委員 はい、そういう話で、桃太郎を分離してどっかで使うとかそういう話ならもうちょっと、すっきり感ですね。

○大森市長 すっきり感。

○岡山委員 すっきり感がなくなる。3つの言葉を、3つを重ねることによって。

○大森市長 分かりました、分かりました。ここはこれから、中身はみんなあまり説明できなくてもこの言葉は動いていきますので、じゃあ会長、副会長に一任いただいてという

ように思います。

それから、幾つかのお話がありました。我々、田淵さんなんかは具体性をもう少し入れたらどうかという話。具体性を今度はどこに入れるのがいいのかというのも、これはそれぞれの分野別計画なんかも書いていって全体で計画になっていくんで、それにしてももうちょっと書いたらっていうところもあるかもしれないし、そういう視点はちょっと考えていかなきゃならないなというように思います。

そんなことで長い間この議論をしていただきまして、我々のほうも頭の中にいろんな刺激を受けて、いい形になってきているのかなというように思ったところであります。これからのスケジュール、北川局長のほうできちっと整理をさせていただいて、最終版、会長、副会長のご了解を得たものをまた皆さん方にお話をさせていただいて、どうしてもここはおかしいんじゃないかっていうのがあれば、またそこでお話をいただければと思います。本当にありがとうございました。これから表に出る総合計画をつくらせていただきたいと、思います。よろしくお願いします。

○杉山副会長 ありがとうございます。

あまり大森市長からお話をいただいた後に私がコメントを差し出すのはちょっと問題かも分からないんですけど、某県が晴れの国というスローガンを使ってまして、私は実は県北の美作の出身で、県北からするとこんなばかな話があるかと。どうして県北の議員さんは反対しな~~かった~~のかと。あり得ないですよ。

○谷一委員 県の話ですね。

○杉山副会長 はい。これからの季節時代は「きたけ」北気って言って冷たい雨がずっと吹き、それが吹雪になり、雪になるんですけど、とても晴れの国とは言えない。

○谷一委員 晴天率は岡山1位じゃないですよ。

○杉山副会長 それから、もう一つ言うと、某県がうどん県だと言って、実はそれを一生懸命宣伝するために、これは齋藤先生のほうがお詳しいんですけど、糖尿病予備群を増加させていて、物~~すぎ~~い糖尿病予備群の患者が多いんですよ。人口比で~~み~~ると最も多

い県の一つになっていますで。だから、一つのことに集約するということはかように非常に難しいことだと思いますので、政治判断も含めて、最終的に会長、副会長、そして事務局とで相談してますけど、大森市長にお決めさせていただけたらというふうに思っております。

それでは、ほかに何かございますでしょうか、委員の先生方から。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○杉山副会長 なければ、これで本日予定しておりました案件は全て終了しましたので、進行を事務局のほうにお返ししたいと思います。

5 閉会

○司会 事務局でございます。ありがとうございました。

これをもちまして令和7年度第3回岡山市基本政策審議会を閉会いたします。皆様、ありがとうございました。